

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101041		
法人名	医療法人 群栄会		
事業所名	グループホーム みずきの家		
所在地	前橋市池端町384番地1		
自己評価作成日	平成23年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を通して咲く庭の草花や野菜作り、行事やおやつ作り等日常の暮らしの中で、季節を感じながら生活できる事をとても大切にしている。利用者様・ご家族様との信頼関係を深める事やホームをより深く知ってもらう為の働きかけを行い地域の方にもっと気軽に立ち寄って頂けるようなホーム作りを目指しています。又病院併設の施設である為、緊急時の対応がスムーズで安心と共に食事面でも管理栄養士の献立によりバランスの良い食事となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

提供するサービスについての利用者・家族等の意見や要望を受け入れ、ホームの掲示板に原文のまま公表している。改善策等の検討案も記入され、外部に向けてホームの姿勢を明らかにし、本人や家族等に安心感と信頼を与えている。利用者が趣味や楽しみごとを継続して、本人の力を活かして生活できるよう、職員は生活環境の整備や活動の場面づくりをしている。畑で育てたこんにやく芋を使用したこんにやく作り、種々のおやつ作り、お蚕から育てた繭でうちわ作り等を行っている。本人の喜びや励みになるように作品はホールに掲示している。理念の1つでもある「個性を生かし、その人らしく・・・」を実践していることが伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方との関わりやつながりを大切にしている	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念を目標に掲げ、日々のサービス提供時に活かしている。理念から逸れた場合には、注意し合い実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域活動の役割として回覧板や古紙回収等に協力、又地域の行事、催事等には積極的に参加し、地域の方との交流を深めている	町内会の新年会や敬老会・歓送迎会に招待状を頂き参加したり、交番にホーム便りを持参している。地域の行事等にも参加している。隣接の法人本部は他区域だが、だんだんと地域に受け入れられつつあるとホームは感じている。ボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での会合やイベントに参加し、その都度ホームを知ってもらい理解を深めてもらえるような働きかけを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており有効的な意見交換の場となっている	2ヶ月に1回定期的に開催されており、民生委員・自治会長・家族・行政等が参加し、運営状況等報告を行い、意見交換がされている。地域との交流が運営推進会議を通してできるようになってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市との情報交換や相談等、支援あり	市の情報交換会に参加したり、相談事等で市の担当者と連携を図りながら、サービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	処遇対策委員会が中心になり目標を持って実践し、定期的に話し合いを行う事によって認識を高める努力をしている	日中、玄関は開錠されている。法人の身体拘束委員会の会議に参加したり、県主催の「身体拘束廃止に関するシンポジウム」に2名が参加し、社内で報告を行い、職員の共通認識を図っている。処遇対策委員会では「言葉の抑制」を目標に掲げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても処遇対策委員が中心になり共通認識を持てるよう話し合いを行い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が現在入居している。関係者と話し合い支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い納得と同意を得てから対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見や要望を出せるような環境作りに日頃より努めている。出された意見や要望等は掲示、職員会議で話し合う等、サービスに反映させている	「本人の想い」を大切に、利用者の言葉を書き留めている。家族等は意見等を言い出し難いと理解し、話し易い環境と信頼関係づくりに努めている。出された意見等は職員間で話し合い、改善策を記入し掲示している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議や職員会議・毎日のミーティング等で日頃から意見や要望を出す機会を設けている	申し送り時や職員会議等で職員の意見を吸い上げ法人に繋げている。法人からの意見も職員間で話し合い共有している。希望休等も取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、業務区分や勤務区分表を適切に作成し、超過勤務の縮減等を管理している。効率的な業務計画の推進を行い職場環境条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりが目標を持ち、モチベーションを高めるよう、施設内外の研修を多く活用し教育体制強化を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や相互研修等にはできる限り参加し質の向上を図る努力をしている。研修等を通じての交流もあり情報交換等行い参考にしている事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は本人よりも家族からの電話や来訪が多く結果本人の困り事よりも家族の主張を聴いているが、利用開始後に本人が困っている事、不安な事を聴く機会を多く取り早い時期に良い信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時又は後日、家族に来居して頂きより細部に亘っての聞き取りや相談を受けている。家族に来訪して頂き(できれば本人と一緒に)ホーム内を案内し、実際の生活を見て頂きながらお話を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に応じて可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている。母体病院や老健施設・居宅支援事業所等との連絡体制あり、必要に応じた対応ができるよう、相談やアドバイスしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合って生活していくという考え方の中で常に教えたり教えられたり、励ましたり励まされたりしながらの生活を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や変化等、日常の様子を家族に知ってもらう為、きめ細かく伝えるようにしている。家族と一緒に過ごす時間を大切にしており、必要に応じての提案や協力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や遠方の家族が訪ねてきたり、身内の家にでかけたりとの交流は継続できるよう支援している	子供の家への外泊やお墓参りに出かけたり、在宅時代の友人等の来訪がある。隣接の老健施設を訪ねたり、文化祭に出展、商店へ買物に出かける等、馴染みの関係の継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で自然に協力し合ったり、助け合ったりできるよう利用者同士の関係を配慮した席決めを行う事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのったり、情報提供等行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の自己表現が困難な方が多い為家族からの情報や日々の関わりの中から得た情報を共有しながら思いや意向を把握していくよう努めている	「その人の尊厳を傷つけないように、なるべく1日を無駄なく過ごしてもらるように」という思いで、職員は家族等からの情報や本人の思いを推し測って意向の把握に努めている。その情報を職員間で共有し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供となにげない会話の中からも情報を引き出せるよう努め、家族には来居時に、折にふれ話をきくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し援助していく中で心身の状態等個別の情報等も共有しながら把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、担当者会議にて医師や看護師の意見やアドバイスをもらっている。家族とも折にふれ話し合い情報や意見をもらっている	本人・家族の思いを聞き取り、ミーティング等で話し合い介護計画に繋げている。月に1度のモニタリングを行い、状態の変化に応じて随時と認定期間で介護計画の見直しを行っている。	月に1度のモニタリングを参考に3ヶ月に1度の介護計画の見直しを検討して行ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量・食事量や排泄等は毎日個別にチェック表記入し身体状態の観察・情報共有がしやすいように図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてできる限り柔軟に対応している。医療連携体制を活かして、状態に応じての往診や点滴処置、他病院への通院介助等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉事務所職員・成年後見人・包括支援センター等と協力しながらの支援、消防署協力の火災訓練や運営推進会議には地域の民生委員さんの出席がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。	入居時に説明し、納得のもと、18人が週に1回協力医の往診を受けている。訪問歯科の支援もある。その他の受診は家族同行が原則だが、状況に応じて職員が代行している。薬が変更になった場合は家族等に報告している。緊急時は医師の判断を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に健康面の相談しており、気づきや情報も細かく伝えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携体制ができており、ホームでの対応可能であればなるべく早く退院し、入院によるダメージを少しでも軽くできるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に係る対応の指針がある。すでに話し合いを持ち内諾書をもらっている家族もある	入居後、話のできる状況の時に本人・家族等に説明している。医師が重度と判断したら、家族等に口頭で伝え、指針としての内諾書をもらっている。グループホームは生活の場であり、医療的処置が必要になったら病院へと説明しており、職員間でも共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し法人との連絡体制は確立されているが全員が実践力を身につけているとは言えない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力あり年2回の火災訓練を行っており災害時における併設病院との協力体制はできている。今後の課題として地震等災害時のマニュアルを見直し整備していく	年に2回、消防署立会いの下で避難誘導・通報訓練と自主訓練を行っている。備蓄の用意はまだしていない。ホームの周りには家が無く近隣の協力体制は薄く、隣りの老健施設(法人)の応援に頼ることになる。	ホームの構造や2ユニットということからも、利用者と職員が避難経路等を身に付けられるように、自主訓練の増加と備蓄の用意をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会では利用者の尊厳を傷つけるような対応について話し合い、またミーティング等で折にふれ話し合い意識向上に努めている。特に排泄時の声かけにはきをつけて対応している	処遇委員会で「言葉の抑制」を目標に掲げ、日常の言葉使いを振り返る機会にしている。排泄支援の際には、声かけやさりげない誘導に気を付けている。ノックをしてから入室をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも本人が納得して行動できるように、その方に応じた声かけを行い、本人が決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての流れはあるが、その日の状態や気持ちを汲み取り、出来る限り個性のある支援を心掛けて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪・口のまわりの汚れ・眼やに・男性はひげそりにも気をつけている。衣類にこだわりのある方の更衣介助の際には特に注意を払い本人の好きな洋服が着られるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・食器拭き・食材下ごしらえ等できる事を職員と一緒にしてくれる方もいる。庭で採れた野菜で1品おかずが増えたりおやつで頂いたり、楽しめるような工夫もしている	法人の栄養課が献立を作成し、利用者の好きなものも取り入れた家庭的な料理を提供している。職員は検食者のみ一緒に食べている。おやつ作り、外食やお誕生日の祝い膳等、色々楽しめるような工夫をしている。	グループホームの特性を踏まえて、職員が利用者と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりを検討してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の栄養士の献立で対応。食事制限のある人、偏食や水分を飲みたがらない人等、その方に応じて対応。食事量、水分量のチェックは毎食行い摂取量の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけすればできる人、誘導や介助が必要な人等職員は把握しており、毎食後その方の力量に応じた支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し利用者1人ひとりの状況に合わせて誘導を行い、おむつを使わずにトイレ排泄ができるよう支援している	排泄チェック表を使用し、個々の状況に合わせた誘導を行い、おむつを使わずにトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間もトイレ誘導をしている。失敗した場合は職員間で話し合い次回に活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、野菜類、水分摂取等は日常的に配慮して自然排便できるよう取り組んでいるが、必要に応じて医師と相談し下剤での調整をしている方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望やタイミングに合わせて入浴して頂けるようにしている。その日の希望を確認したり拒否ある方には声の掛け方や対応の工夫をしている	毎日入浴できる体制があり、毎日入浴している利用者がいる。午前から午後にかけて支援し、夏にはシャワー浴もできる。日帰り温泉施設の足浴にも出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や、夜間の就眠状態の観察を行いながら安眠につながる生活を支援している。昼食後の午睡が日課になっている方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能・副作用の説明書は個別に保管し全職員に分かるようにしている。処方変更があったときには申し送りを徹底し様子観察の強化や記録等に注意して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	蚕の飼育・コンニャク作り・野菜作り等は毎年行っており昔の経験や知恵を発揮する場面を作っている。家事等でも得意な事、好きな事で力が発揮できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に天気の良い日には散歩や外気浴をしている。希望に応じて買い物に出かけたリ外食やドライブにでかけたりしている	天気の良い日には、外気浴や2~3名での散歩、買い物、畑作業等で日常的な外出支援を行っている。隣接する法人の文化祭・外食・ドライブ・季節の花見・ぶどう狩り・日帰り温泉へ出かける等、家族と協力しながら、戸外に出て気分転換が図れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力量に応じたお金の使い方や管理の仕方を家族と話し合いながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分ではかけられないが、かけてあげれば会話ができる方、家族からの電話で常に連絡を取り合っている方等、希望に応じて日常的に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節ごとの草花を生けたり飾りつけ等で季節を感じ楽しめるように工夫している。畳敷きのスペースには掘ごたつがありくつろげる場となっている	玄関やホールに季節の花を飾っている。回廊式の廊下が食堂と畳の部屋の雰囲気異なる共用空間を囲んでいる。ホールからは、手入れされた庭が眺められ開放感がある。壁には当月の予定が掲示され、お蚕を育て繭で作ったうちわや書道の作品等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の壁面に写真コーナーがあり折に触れ楽しめるようにしている。ソファーをおき一人になれる場所も確保、畳敷きのスペースも有効活用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家具等馴染みの物の持ち込みは可能である事は伝えている。本人・家族と相談しながらその方に応じた居室の使い方を工夫している	居室にはトイレが設置され、ベッド・椅子・エアコンが備え付けられている。時計や写真、人形や花、個人の作品が飾られ、身の回り品が整理されている。それぞれ個性的な居室で居心地良さそうに見受けられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安の原因を探りながら状況に合わせて環境整備に努めている		